

くまもと☆農家ハンター — 鳥獣対策を通じた地域の担い手育成 —

組織化・ICT
人材育成

- 「地域と畑は自分たちで守る」ことを目指し、県内各地の若手農家約100人による自衛団を結成。農村の担い手作りが目標。
- 専門家を招いての講習会や自主勉強会を10回以上開催し、伝統的な猟師の技×最新のICT技術で効率的なイノシシ対策を実施。
- 駆除に必要な箱罠等の購入資金はクラウドファンディング（返礼品は農作物）により調達し、メンバーへ無償貸与。

立ち上げ

- H28年2月、農家のおばちゃんの一言でイノシシ被害の深刻さを知る。
- 宮川氏らが県農業経営塾の参加者に呼びかけ、H28年4月に「イノシシを考える農家合宿」を開催。
- 猟師や行政に頼るばかりではなく自分たちの出来ることを皆で考えよう、と農家による自衛団「くまもと☆農家ハンター」結成（H28年）。



- 担い手作りの観点から「若手農家」に限定し25～40歳の若手有志約100名で構成。全員がイノシシ対策（捕獲、防護、啓蒙）のプレーヤー。

活動

<技術開発>

- 新米ハンターには箱罠+IoTカメラを無償貸与してイノシシを「見える化」ビデオ会議で遠隔地のメンバーも徹底サポート。見回りの負担軽減に成功。
- 九州農政局と共同でシンプル&リーズナブルな自作IoT発信機の開発に取り組む。
- 捕獲獣を特殊機械で堆肥化し畑に還元。

<地域との連携>

- 活動を広げるため行政、高校、大学、JA、メーカーと連携。
- 工業高校で箱罠制作の出前授業を実施。
- 4年間放棄された耕作放棄地を耕して電気柵を張り、子供たちとジャガイモを収穫する再生プロジェクトに成功。



捕獲状況の「見える化」

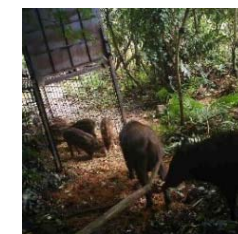


堆肥化



<人材育成>

- リーダーが猟師から1年かけて捕獲技術を継承し農家メンバーへ横展開。
- 活動の知見を動画サイトで公開しつつマニュアル化しクラウド上で共有。情報発信。
- 活動で出会った解体処理場を継承しジビエの供給を2019年から本格的に開始予定。講演や視察受け入れを行いながら、産学官連携のモデルを目指す。



くまもと☆農家ハンター

—鳥獣対策を通じた地域の担い手育成—

組織化・ICT
人材育成



きっかけ

収穫前日のデコポンを一晩にして食べられた農家のおばちゃんの一言がはじまり

もう農業をやめようと思うとたい...



代表 (有)宮川洋蘭 宮川将人氏

信条 返事はYESかハイ
イノ☆コミは地域を救う

(イノシシを介したコミュニケーションの活性化)

大変だったこと

- ・農業と活動との両立、家族からの理解
- ・クラウドファンディングの開催と運営
- ・猟友会に応援してもらうための信頼作り



プロジェクトリーダー
稲葉農園 稲葉達也氏

Step1 (H28 2月)

現状認識と活動の決意

- 初めてイノシシによる被害、全国的にもイノシシ被害が深刻で減る要素がないことを知る。
 - 猟師ばかりに頼らず農家自身が被害対策に取り組む必要。
- 「若手農家がやるしかない！」

Step2 (H28 4月)

農家有志の仲間集め

- くまもと農業経営塾（県の若手農業経営者育成事業）の塾生や4Hクラブの有志によるワークショップを開催。
 - 多くの若手農家の賛同を得る。
- 地域の担い手作りになる

地域の希望の星に
なりたい！の意味

くまもと☆ 農家ハンター の立ち上げ

Step3 (H29 1月～)

罾等の購入 (CF) ・捕獲技術の習得

- ICT罾の購入のため、クラウドファンディング (CF) を活用して資金集め。箱罾約40基と、ICT機器を購入 (資金提供者へのお礼品はメンバーが育てた農産物セットなど)。4回達成中。
- 応援団を増やしつつ活動の信頼感を高める
- 狩猟免許を取得したリーダーが地元猟友会支部長に弟子入りし、1年かけて技術を継承。

取組に当たっての秘訣

- 全国に活動が広がるように仲間と、応援してもらうを増やす。
 - そのために積極的にホームページやSNSで情報発信。
 - ICTを積極的に活用することでメンバーのITリテラシーが向上し農業経営力UPに貢献。
- 取組を通じて、これからの農村を牽引していくリーダーを育成

将来に向けて

- 全国各地に自然と広がるような獣害対策モデルを構築したい。
 - AIなど最新技術を使った生態調査等アカデミックな研究をしたい。
 - 野生生物の管理と共存を考えるSDGsに沿った取組みを進める。
- (SDGs: 持続可能開発目標 (Sustainable Development Goals))

Step5 (H29 9月～)

捕獲 & 防護活動、人材育成

- 技術の横展開で県内各地にて半年間で150頭を超えるイノシシ捕獲に成功。
- 活動やノウハウを動画サイト等で共有。大学や現場で研修会を10回以上自主開催。獣害対策の市町村講演は20回を超える。

取組を経て...

専門家と共同でICTを活用した箱罾のモニタリングシステムを構築